

友達になりたい気持ちはあるけども、表に出るまで時間がかかる。(石田)

坪：つきつめていけば人間として同じなんです。確かに、最初は言葉の障壁があつて細かな感情なんかは理解しにくい。でも日常的に接していれば、大体どんなことを考えているのかが分かってきます。一般的に日本人は外国人の人が積極的に接しようとしても受け入れない面がある気がしますね。かえって距離を置いてしまうような。

石：私は、例えば歳が離れていたらその人の母親という感覚で接します。外国人、日本人という意識ではなくて。相手の母親と同じレベルで考えたいと思うんです。向こうのお母さんだったら何をしてくれるかな、どう考えるかなって。

石：私たちが海外へ行けば、あちらの文化を吸収したいと思うでしょう。考えは同じだと思うんです。

坪：外国人の皆さんは、白根のイベントなどに参加してみたことはありますか。

石：風合戦と一緒に風を引っ張りました。あとは堀掛のお祭りや墓参り、おみこしにも参加してみました。仕事以外でいろんな人たちに会えるので楽しいです。

坪：私も風合戦に参加しました。あるチームに入って引っ張ったんですが、とても楽しかったです。

石：私も風合戦に参加しました。あるチームに入って引っ張ったんですが、とても楽しかったです。

で、しょっちゅう参加しています。実はもうすぐ白根の女性と結婚するんですが、それはあるイベントで知り合ったのがきっかけでした。

石：日本人は街でいきなり声を掛けたりするタイプではないでしょう。何かイベントとか会とかで、少しずつ交流が広がっていくみたいだし、今はそれでいいと思うんです。本当は積極的に飛び込んでいければ一番いいんですけど。鳥国ですから、昔から違う国の人との交流に慣れていないのかも知れないですね。

坪：信濃川と中ノ口川で開かれただけでも、白根という感覚がありますよね。

石：日本人は外国人の人と接することに慣れていないということなんです。慣れないということなんです。

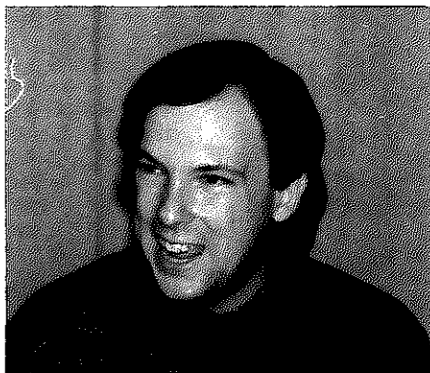
坪：友達になりたいという気持ちはあると思うんです。ただそれが表に出るまで時間がかかる。先ほど話しましたが、私の声のおじいちゃんも、少しずつ声を掛けられるようになったんです。言葉は通じなくても、肩をポンとたたいたりして。

坪：それは自分の国の言葉でも、気持ちに通じるということに気付いたんです。私の身内で英文科を出た人がいるんですが、その人がとっさの場合に英語が出てこない。顔を見て「外国人」

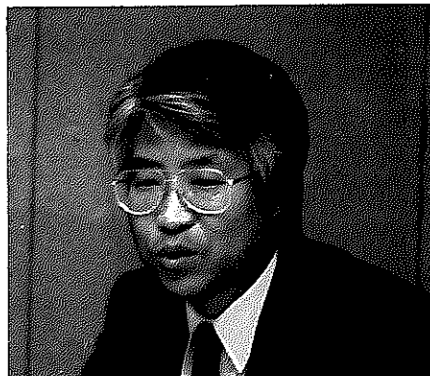
石：ちょっと勇気を出せばできますよね。あいさつはとも良いことだと思います。

坪：私もまさにそのとおりだと思います。今は日本人同士でもあいさつをしない時代ですが、白根はまだ、温かさを残した土地柄だと思いますから。渡：白根に住んでいる外国人の人も「おはよう」は分かるでしょう。言葉なんて違ってもいいし、間違ってもいい。きっと意味は通じるんですから。

坪：私は日本人の人に、「日本語でも大丈夫ですよ」と言いたいです。以前、



フレッド・ダービン 宣教師として7年前に来日。東京、北海道など各地を回る。今年4月から白根市へ。高校前通在住。



坪川藤夫 市企画財政課課長補佐として国際交流事業も担当。私生活でもホームステイ受け入れなど、積極的に国際交流を推進中。

言葉は違ってもあいさつはしたい。きっと意味は通じる。(渡辺)

坪：日本人はどうしてもえん曲に物を言いがちですね。自分の目的、考え方は最初にはっきりさせた方がトラブルも少ないと思います。

坪：日本人はどうしてもえん曲に物を言いがちですね。自分の目的、考え方は最初にはっきりさせた方がトラブルも少ないと思います。

坪：私もそう思うことがあります。でも私も私自身の気持ちがよく分かります。私自身もいつもここにしている方なんです。うれしくても恥ずかしくても、ここにしているのは感じがいいですから。

坪：日本人はどうしてもえん曲に物を言いがちですね。自分の目的、考え方は最初にはっきりさせた方がトラブルも少ないと思います。

日本語で話し掛けてもらってもいい。その方が人間として向かってきているように感じます。(ダービン)

坪：日本人は外国人の人に慣れてなくて、どうしても構えて緊張してしまふようですね。この白根の地に住む上で、国籍や言葉が違ってうまく付き合っていくために大切だと思うことがありましたら聞かせてください。

渡：そうですね。言葉が違うという難しい面もあるかもしれません。でも横浜の中華街では、道を歩いている中国人同士が「ニイハオ」、「ニイハオ」とあいさつしていますね。とてもいい雰囲気です。例え言葉が通じなくても、あいさつはいいと思うんです。

ある家族が私を見て「ああ、英語ができれば、あの外国人に声を掛けられるの」と話しているのが聞こえてきました。それを聞いて私はとても悲しかった。アメリカへ行けばみんなが英語を話します。それと同じで、外国人も日本では日本語で話すのが当然だと思つてますし、そのために勉強もします。もちろんそうでない外国人もいますが、大部分は日本語で扱われることを期待しています。

坪：レストランでわざわざスペインやフォークを出されるとちょっとがっかりです。もちろんその人が親切なのはよく分かっていますけど。

坪：そんなときは外国人として見られていることがよく分かります。

坪：以前、郵便局で私が何かを日本語で頼んだら、英語で質問されました。また日本語で答えてもずっと英語が返つてきて、最後は私も英語で話しました。外国人が日本語でしゃべって

るなら、日本人も日本語で答えていいと思います。

坪：ほとんど日本語が分からなくても、分かるよう努力するものですか。

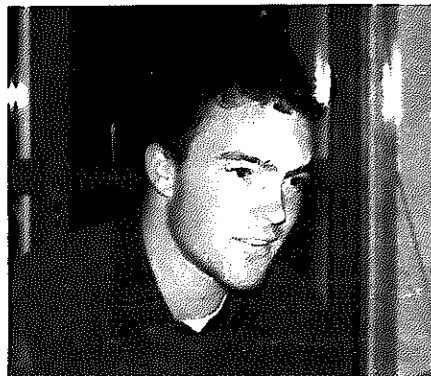
坪：私は日本が好きで日本に来ています。日本に来たからには日本語で話すのは責任だと思つています。

坪：英語でなくて日本語で話し掛けてもいいんです。今日話してみても初めて分かりました。確かにその方が自然だし、外国の人にとってもよいかも知れないですね。

坪：私も本当にそのとおりです。でも、日本語で声を掛けてくれる人は親しくなりやすい。無理をして英語で話し掛けられると、その分ちょっと親しくなりにくいんです。その人の気持ちは一に外国人、二に人間という気がします。むしろ日本語で話し掛けてくれるというのは、人間として向かってきているように感じますね。



石田美幸 上塩俵在住。主婦。4年前から数回にわたってホームステイを受け入れている。白根国際交流協会会員として活躍中。



ベンソン・ジェームス 1年前に来日。市内の農園で働く。堀掛在住。日本で英語教師になることを夢見て頑張る好青年。



渡辺紀久子 みの口在住。3年前から市内の教会で、外国人を教師に招き英会話教室を開催。国際感覚ある優しいお母さん。



スコット・マイヤー コンピューターソフト会社勤務。今年4月から白根市へ。来春、市内の女性と結婚しアメリカへ戻る予定。